

# 卒業生の声



令和2年度卒業  
呉医療センター  
3A病棟 勤務

仲田 美優さん



私は3A病棟に所属しています。こちらの病棟では、人工呼吸器を付けている重症患者の看護から回復期における患者の看護・急変時の対応など、様々な看護を提供しています。私は病棟看護のみですが、救急外来や透析患者の看護・心臓カテーテル治療などについて、看護を実践しています。日々の看護実践の中で、わからないこと・不安なことが多くありますが、個人のペースに合わせて相談に乗ってもらったり、先輩方がフォローして下さり、安全で的確な看護ができるよう指導して頂けます。実際の看護の場面では、病態や症状は、患者個々様々で、回復の経過を辿る患者の看護に携われた時に「ありがとう」と声を掛けてもらえた時は特にやりがいを感じています。お看取りの場面では、その人の最期の看護という特別な看護に加え、家族看護の大切さについても、実践を通して学ぶことができます。これからも様々な患者の看護に携わり、自分の看護観をより明確に看護ができるようになりたいと思います。皆さんも、これから様々な場所で自分の思い描く看護師として活躍されることを願っています。

令和3年度卒業  
呉医療センター  
4B病棟 勤務

門見 真佳さん



私は当校を卒業し、呉医療センター4B病棟で勤務しています。4B病棟は小児科・NICU・内分泌・糖尿病内科・リウマチ科がある混合病棟で、新生児から成人までの幅広い年代の看護を経験できます。小児においては機嫌が良い時ばかりではなく「怖い。注射嫌だ。」と言って看護師を見るだけで泣いてしまう患児もいます。そのためバイタルサインの変動が生じてしまわないよう外的刺激を最小限にし、患児に負担をかけないように実施するよう心掛けています。また両親の健康面にも配慮しながら不安な事や悩みを吐露しやすい雰囲気作りを心掛けています。配属された当初は覚えることが多く不安や悩み事ばかりでした。

10月より呉医療センターではPNSが導入され、2人1組のペアとなり看護を提供しており、わからないことなどは先輩に教えて頂きながら少しずつではありますが知識をつけることが出来ていると感じます。限られた時間の中で、患者の年齢や疾患に応じた看護を行うことに難しさを感じ悩む事も多くありますが、先輩方に助言を頂きながら日々頑張っています。コロナ禍で思うように臨床実習ができず不安が大きいかと思いますが、今までに得た知識を存分に活かし先輩方や同期を頼り、励まし合いながら頑張ってください。